

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会水球競技 【結果速報】

試合 M18 準決勝2

【2025/8/19】

西京 12 $\left[\begin{array}{ccc} 4 & - & 2 \\ 3 & - & 3 \\ 3 & - & 7 \\ 2 & - & 2 \end{array} \right]$ 14 埼玉栄

PSO

審判1 坂井奎太

審判2 御崎智徳

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	清角 圭介	37	14	46%
GK13	堤 珀來	0	0	

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	山口 大和	38	12	48%
GK13	黒田 陽太	0	0	

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	清角 圭介			
2	荒川 蒼空	5	3	2
3	井上 大誠	4		
4	長野 留巳	3		1
5	濱川 愛斗	10	6	
6	坂東 汰一	6	2	1
7	長尾 大樹	7	1	1
8	堀 海童	1		
9	毛利山 幹太			
10	三宅 天太郎	2		2
11	大槻 瑛			
12	高氏 悠吾			
GK13	堤 珀來			

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	山口 大和			
2	小久保 旭			
3	吉川 道太郎	6	1	
4	稲垣 拓哉	16	8	
5	菊池 俊来	1		
6	茂呂 明	3	1	2
7	曾根 翔英			
8	池田 大空	9	3	
9	遠藤 樹吹			1
10	木嶋 美駆	2	1	1
11	狩野 一勘			
12	村田 了皇			
GK13	黒田 陽太			

R7 インハイ水球 Web サイト

<https://j-waterpolo.net/25Yamaguchi/index.html>



令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月19日（火）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

18

帽子の色 白

西京

1 2

4	-	2
3	-	3
3	-	7
2	-	2
PSO		

帽子の色 青

埼玉栄

1 4

審判1： 坂井 奎太

審判2： 御崎 智徳

戦 評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は、8月19日（火）、山口きらら博記念公園水泳プールで準決勝第2試合を迎えた。対戦は、西京高等学校（白帽）と埼玉栄高等学校（青帽）。ともに準々決勝で強敵を退け、ここまでの道のりで確かな実力と結束力を示してきたチーム同士の激突となった。

試合は第1ピリオドから目が離せない展開となった。西京は⑤濱川がゴール前で力強い一撃を決めると、さらに巧みなルーブシュート、ドライブからの得点と立て続けにゴールを奪う。②荒川の冷静なフィニッシュも決まり、序盤から観客を沸かせた。対する埼玉栄もすぐさま反撃に出る。⑧池田が角度のない位置から見事なシュートを沈め、④稲垣が鋭いカウンターで得点。さらに⑤菊池が体を張ってペナルティを獲得するも、西京の守護神①清角が見事なセーブでゴールを守った。1ピリオド目は西京が4-2とリードを奪ったが、互いの意地が随所に見える立ち上がりとなった。

第2ピリオドも拮抗した攻防が続く。西京は⑦長尾の退水誘発からの得点や、⑤濱川が相手に当たりながらも決めたシュートなどで勢いを保つ。一方、埼玉栄も④稲垣のフリースローシュート、③吉川の力強いミドル、さらに退水セットから⑩木嶋が冷静に押し込み、着実に得点を重ねる。GK①清角の好守が続いたこともあり、西京はわずかに優勢を維持。前半を終えてスコアは7-5と西京リードで折り返した。

しかし第3ピリオドに入ると試合の流れは大きく傾いた。埼玉栄の④稲垣が驚異的な集中力を見せ、カウンター、フリースローシュート、退水セット、さらには強烈なミドルと立て続けに得点を量産。圧巻のプレーで観客を魅了した。③吉川や⑧池田も連携の中でゴールを決め、チーム全体が一体となった攻撃を展開。これに対し西京も⑤濱川や⑩三宅、⑥坂東が必死に食らいつき、得点を返したものの、流れを完全に引き寄せたのは埼玉栄であった。このピリオドは12-10と逆転に成功し、試合はさらに白熱する。

最終第4ピリオド、西京は意地を見せる。⑤濱川がゴール前で相手をかわしてシュートを決め、⑥坂東がカウンターから泳ぎ込み得点。会場は再び西京コールに包まれる。一方、埼玉栄も粘り強いプレーを見せ、⑥茂呂や⑧池田が退水セットから確実に得点を重ねた。GK①山口も好セーブを連発し、最後までリードを守るチームを支えた。結局、第4ピリオドは互いに2点ずつを奪い合い、勝負はそのまま終了のブザーを迎えた。

最終スコアは12-14。勝利を手にしたのは埼玉栄高等学校であった。だが、この結果だけで試合を語ることはできない。西京は序盤の勢い、⑤濱川を中心とした力強い攻撃、そしてGK①清角の守備が光り、最後まで逆転の可能性を感じさせる堂々たる戦いぶりを披露した。敗れてなお、観客の拍手は彼らに向けられた。

一方で、埼玉栄はチーム全員が持ち味を発揮し、特に④稲垣の存在感は圧倒的であった。勝負どころで確実に決め切る力、そして仲間と連動した連携は、決勝進出にふさわしい内容であった。

準決勝という大舞台で繰り広げられたこの一戦は、勝敗を超えて「高校水球の魅力」を存分に伝えるものとなった。攻守の切り替えの速さ、最後まで諦めない姿勢、仲間を信じて戦う心が凝縮された60分間。西京と埼玉栄、両校の選手たちの健闘は、この大会の歴史に鮮やかに刻まれたといえる。

最終的に勝者となったのは埼玉栄であったが、敗れた西京の勇姿もまた、観戦したすべての人々の記憶に強く残るだろう。

記 録 者

伊藤・加藤・菅原